

令和4年度に評価を行う分野横断的な政策(案)

厚生労働省政策統括官(総合政策担当)付
政策立案・評価担当参事官室

令和4年度に評価を行う分野横断的な政策（案）

- 近年では、複合的な課題を抱える対象者層に対して、複数の施策が連携してアプローチするケースが増加。
- 第5期基本計画期間は、複数の施策目標にまたがる「分野横断的な課題」の進捗状況を評価する取組を新たに行う予定。
- 評価書は、毎年度末の有識者会議で審議予定。今回は、令和4年度末に評価を行う政策(案)についてご意見を伺うもの。

テーマ案：就職氷河期世代への支援

1. 背景

- ・就職氷河期世代は概ね平成5(1993)年～平成16(2004)年に学校卒業期を迎えた世代を指し、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った世代であり、希望する就職ができず、現在も、不本意ながら不安定な仕事に就いている、無業の状態にあるなど、様々な課題に直面している方がいる。
- ・「経済財政政策と改革の基本方針2019」(令和元年6月21日閣議決定)に盛り込まれた「就職氷河期世代支援プログラム」は、**令和2年度からの3年間を集中的に取り組みべき期間と定めている。**
- ・同プログラムを踏まえた具体的な施策は、「就職氷河期世代支援に関する行動計画」に記載されており、厚生労働省も、同計画に基づき各種取組を実施。

3. テーマの提案

- ・ **就職氷河期世代の方の状況が多様である(※)ため、複数の施策が連携し、取組を実施している状況。**
※ 不安的な就労状態にある方(不本意非正規)、長期にわたり無業の状態にある方、社会参加に向けた支援を必要とする方(ひきこもり)
- ・ 「就職氷河期世代支援プログラム」では、現状より良い処遇、そもそも働くことや社会参加を促す中で、**就職氷河期世代の正規雇用者を30万人増加させることを目指している。**
- ・ 上記目標は厚労省関係の政策だけでなく、他省庁の政策と連携して目指すべき目標であるが、**厚労省関係の各種施策がどの程度有効に機能しているか等を分野横断的に評価してはどうか。**
- ・ **評価結果は、多様な事情を抱える就職氷河期世代への支援を継続的に実施していく上での政策改善につなげることとしてはどうか。**

2. 政策内容(厚生労働省関係)

(1) 相談、教育訓練から就職、定着まで切れ目のない支援

- ・ハローワークの専門窓口の体制拡充、担当者によるチーム支援
- ・就職氷河期世代の方向けの「短期資格等習得コース」
- ・採用企業側の受入機会の増加につながる環境整備(各種助成金)
- ・民間事業者のノウハウを活かした不安定就労者の就職・定着支援 等

(2) 個々人の状況に合わせた、より丁寧な寄り添い支援

(アウトリーチの展開)

- ・アウトリーチ等の充実による自立相談支援の機能強化
- ・ひきこもりに関する地域社会に向けた普及啓発と情報発信の実施
- ・地域若者サポートステーションにおける就職氷河期世代の無業者の支援

(支援の輪の拡大)

- ・身近な基礎自治体におけるひきこもり支援の充実
- ・ひきこもり支援に携わる人材の養成研修
- ・8050等の複合的な課題を抱える世帯の包括的な支援の推進等
- ・地域における就労体験・就労訓練先の開拓・マッチング
- ・就労準備支援事業等の広域的实施による実施体制の整備促進
- ・農業分野等との連携強化モデル事業
- ・技能修得期間における生活福祉資金貸付の推進

(3) プラットフォームを核とした新たな連携の推進

- ・就職氷河期世代活躍支援都道府県プラットフォームを活用した支援
- ・都道府県プラットフォームの事務局となる都道府県労働局に就職支援コーディネーター(人材開発支援分)を配置
- ・都道府県による市町村プラットフォーム設置・運営の支援
- ・就職氷河期世代等に対する積極的な広報の実施